

全学年での最後「歴史残す」江陵



3学年そろって挑む最後の夏となる江陵。新たな歴史を刻めるよう一丸となって戦う

今年の春季大会は2試合で16得点と破壊力十分。準々決勝の帯工戦は田島瑠大(3年)と村田龍一郎(同)が思い切りよく引つ張りそれぞれ本塁打を放った。ただ、長打力の一方で単打や小技を絡めた得点はできずに6-11と敗れたため、「派手さはないが、こつこつと次につなげるスモールベースボール」(西田つばさ部長)を意識して練習に取り組んできた。春季大会以前に始めた、エラーをすると一からノックをやり直す「パーフェクトノック」も続けている。

指揮官になって6年目の谷本献悟監督が「力が一番ある」と話す現チーム。緊張感の中で、いつも通りのプレーができるかが求められる。21、22の両日、300人を超える生徒たちによる全校応援の練習を行った。優しく厳しく選手たちに接した兄貴的存在の29歳の西田部長は今年度で学校の募集を行わないため、3学年で戦うのは最後。水上斐斗主将(同)は「監督と部長を漢(おとこ)にできるような結果を出す。歴史を残したい」と力を込める。49人の力を結集して臨む。

表校になると、14、16、17年と北大会に駒を進めた。

最速154kmの直球とキ

レのあるスライダーが武器の左腕・古谷優人投手(現福岡ソフトバンクホークス)を擁した16年は、ベスト4と躍進。古谷は準々決勝で大会記録となる20奪三振の力投で勝利した。

江陵は1946年に池田服装裁断学院として池田町に開校した。56年に池田女子高となり、64年に池田西高に改称して男女共学に。

85年に現校名となり幕別町に移転。池田西時代の第55回大会(73年)から2年連続で北海道大会に進出。2004年に3度目の支部代